

低所得者の健康を守れ！

会社に勤めていた頃は、毎年一回健康診断があったが、退職してからはそんなこともなく「気づいた時には、思わぬ病気になるっていた」という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

昨年の市議会本会議で、柳井誠市議が明らかにした「生活保護利用者の検診率は1/100」との追及は圧巻でした。(詳細は裏面参照)

この時、柳井市議が引用した「北九州市の各種検診制度」を今回は紹介します。

北九州市の各種検診

検診項目	検査内容
特定健診	血圧、検尿、脂質検査、血糖検査、肝機能検査、腎機能検査、尿酸値検査、その他、医師が必要と認めた詳細な検診。
肝炎ウイルス検査	血液検査(HCV抗体検査、HBs抗原検査、必要に応じてHCV抗原検査・HCV-RNA検査)
骨粗しょう症検診	骨密度測定
胃がん検診	胃内視鏡検査
子宮頸がん検診	視診、細胞診、内診
大腸がん検診	便の潜血反応検査
結核・肺がん検診	胸部エックス線検査
喀痰細胞診	喀痰細胞診(肺がんの検診)
乳がん検診	マンモグラフィ(乳房エックス線検査)
前立腺がん検診	PSA検査
歯周病検診	現在歯・喪失歯の状況、歯肉の状況、口腔清掃状態、その他(粘膜・歯列咬合・顎関節等)

受診料は、無料～1000円です。



<下記の方は受診料が無料になります>

1. 70歳以上の方(年齢証明要)
2. 市民税非課税世帯の方(事前に、区保健福祉課で受診券の交付を)
3. 生活保護世帯の方(事前に区保護課で受診券の交付を)
4. 後期高齢者医療被保険者で65歳～69歳の方(被保険者証要)

実施場所・対象者・実施期間・受診回数等は、問い合わせを
※保健福祉局健康医療部健康推進課 電話：093-582-2018

小倉生健会
生活と健康を守る
一人はみんなのために、みんなは一人のために



女性用の服などをいただきました



小倉南区の方から、素敵な女性用の服などをいただきました。ありがとうございます。ご希望の方は、小倉生健会にご連絡下さい。

第12回 小倉生健会総会(ご案内)

日時：6月9日12時～ (昼の弁当を用意します)
場所：健和会複合施設2階 会議室3 (地図参照)
(小倉北区大手町14-22 永照寺前)



えっふーん

憲法記念日に、平成と令和を考えてみました

昨年は明治150年だった。首相官邸のポータルサイト(入口)に、「明治150年とは」というコーナーを見つけた。

そこには、「平成30年は、明治元年から起算して満150年の年に当たります。この明治150年をきっかけとして、明治以降の歩みを次世代に遺(のこ)すことや、明治の精神に学び、日本の強みを再認識することは、大変重要なことです。このため、政府においては、こうした基本的な考え方を踏まえ、明治150年に関連する施策を積極的に進めてまいりました」とあり、様々な施策や取り組みが並んでいる。

しかし、明治150年の前半の77年間は大日本帝国憲法(明治憲法)のもとで戦争を繰り返してきた。日清戦争・日露戦争・日中戦争・太平洋戦争だ。

ところが、その後の73年間は戦争をしていない。それが日本国憲法第9条の力であることは誰もが知っている。首相官邸が「大変重要なこと」という「明治の精神に学び日本の強みを再認識する」が、何を指しているのかは明白だ。

皇位継承で、西日本新聞は「参院選にらみ前倒し」「官邸、宮内庁案を一蹴」「皇室の政治利用危ぶむ声」との見出しで、10月に新天皇の一般参賀を計画する宮内庁に、安倍「官邸の押しは強く『いいからやれ』の一言。聞く耳持たずだった」と書き、「全ては夏の参議選が官邸の本音。皇室の『政治利用』と言われてもおかしくない」と報じた。

もともと元号は、「時間をも権力者が支配する」との考えから生まれたものだ。

平成天皇は「平成が戦争のない時代として終わろうとしていることに、心から安堵しています」と述べた。新天皇は「日本国憲法の定めるところにより…略…世界の平和を切に希望します」と述べた。

政治の大きな役割は二つ、一つは、国民を飢えさせないこと。もう一つは、戦争をしないことだ。以前、女優の吉永小百合さんが「ずっと戦後であってほしい」と語っていた。皆さんは何を思いましたか。

吉永小百合ファン

柳井誠市議の質疑（抜粋） 低所得者・生活保護者の健康

柳井市議：生活保護利用者でない低所得者にもエアコンを 市保護課：生活保護利用者でない低所得者は、対象者ではない



市議会の本会議で、改善を求め
る柳井誠市議

●柳井誠市議：（生活保護を新たに利用しはじめた方にはエアコンが設置され得るようになったが）生活保護利用者でない低所得者に対するエアコン設置と電気代の補助が必要です。本市の高齢者の居室のエアコン整備率、利用状況の調査、室内の暑さ指数の調査も必要です。今後の取り組みを強く要望いたします。

■保健福祉局長：生活保護を利用中でエアコンが設置されていない世帯への補助制度創設を国に求めるべきということ、

国は、近年の猛暑を受けて、熱中症予防が特に必要な方がいる世帯で最低生活に直接必要な冷房器具の持ち合わせがない世帯に対しまして、冷房器具の購入に要する費用を支給する制度の見直しを行いました。今回の見直しは、平成30年4月1日以降に新たに生活保護を開始した方、それから、転居の際に現に所有しているエアコンを移設できない方、こういった方を対象としております。

この見直しによりまして、本市の冷房器具購入費の支給対象となる世帯は平成30年8月31日現在で、38世帯、これは確認しております。このうち24世帯につきましては既に認定を終えて、残りの世帯につきましても速やかに冷房器具が設置されるようケースワーカーがそれぞれ働きかけているところでございます。

一方で、本市といたしましても国が定める

基準に従い、保護の適正実施に努めることとしておりまして、保護基準や夏季加算の新設ということについて国に要望するということは考えておりません。

なお、冷房器具購入費の支給に係る見直しに関しまして、今回の見直しの対象となっている世帯と対象とはならない従前から生活保護を受給し続けている世帯、この間で取り扱いが異なることとなります。そうしたことで何らかの対処が必要であるのではないかと、政令市の間でも実は協議を継続しているところでもあります。意見がまとまれば、国に共同で申し入れをするということにもなろうかと思っております。

健康診断 生活保護利用者の検診率は1／100

●柳井誠市議：生活保護利用者の健康対策について伺います。

本市の平成28年度の国保の特定健診は受診率35.8%です。また、各種がん検診もそれぞれ現状から5ないし12%引き上げる目標に向けて取り組まれています。

一方、生活保護利用者の国保特定健診に相当する基本健診は、平成29年度の受診者67名、受診率0.34%となっています。また、同じく各種がん検診の受診率も同様の傾向となっています。生活保護のしおりでは健診の種類と説明が省略されており、生活保護利用者には説明が不十分で低い受診率の原因となっているのではないのでしょうか。

生活保護利用者の健診の受診勧奨を進め、健康づくり推進プラン同様の目標を持ち、予算を確保して対策をとるべきではないでしょうか、見解を伺います。

■保健福祉局長：本市の生活保護受給者の基本健診の受診率は低い状況です。これは、受給者の約9割が持病などで医療機関を既に受

診されておられまして、治療や必要な検査を医療機関で受けておられるということも要因の一つではないかと考えております。

生活保護受給者は、糖尿病、高血圧症、脂質異常症などを発症した方が多く、健康に向けた食習慣や運動習慣、生活習慣の改善に向けた支援が必要な状況でございます。生活保護受給者の自立を図るためには、まずは健康状態を良好に保つことが大切であることから、生活習慣病の発症や重症化の予防も重要だと認識しております。

このために、本市では、糖尿病を初めとする生活習慣病の治療を行っている生活保護受給者を対象にしまして、健康管理支援事業を実施しております。具体的に申しますと、専任の看護師とケースワーカーが連携して、糖尿病の治療に係る医療費が高いケースや食生活の改善指導が必要な受給者の中から対象者を抽出しまして、適切な食習慣や運動習慣の指導をしております。

こうした取り組みに加えて、健診受診につきましては、新規保護開始時及び年1回、全世帯に生活保護のしおりを配布しまして、健診受診の周知をしております。

更に、通常のケースワークで医療機関未受診者、医療機関にかかっておられない方で健康に対する意識が低い生活保護受給者に対しましては、健診受診の助言、こういったこともやっております。

今後もこれらの取り組みを継続するとともに、生活保護のしおりの記載内容の見直しを含めまして周知方法を検討して、健診率の向上に努めてまいりたいと考えております。

●柳井誠市議：生活保護利用者の健診のことについては、健康づくりプランを見る限り、国保の健診目標は特定健診目標はあるんですけども基本健診の目標はない、しかも健診率100分の1ぐらいの非常に低い状況になっておるわけで、プランの健診の目標において生

活保護利用者の受診は目標の対象外なのか、あるいは対象内なのかお答えください。

■保健福祉局長：当然、それは対象の中に入っていると考えております。

●柳井誠市議：私は、経済的格差による健康格差の問題を指摘いたしました。よく考えてみると、協会けんぽにしても本市の国保にしても後期高齢者医療にしても健診の案内、特定健診、後期高齢健診、それから、がん検診、節目年齢の歯科歯周病検診、こうしたものは文書で案内がされます。それに対して、基本健診の生活保護受給者だけは口頭説明、先ほど言いました国保のしおりでも健診という単語が入っているだけで何の説明もありません。そこを文書でもってきちっと、できれば保存版チラシで説明し配布する、それから、しおりの内容も改善するということでいいですか。

■保健福祉局長：確かに周知の方法というのはいろいろあるわけですが、生活保護受給者の方というのはケースワーカーが1人ずつついて生活のこと全般についてアドバイスを差し上げているわけですが、その中で必ず健診の受診というのは促しているということでございますので、今のところはそれで十分事足りているはずだという思いでやっているわけでございます。

確かに議員御指摘のように受診率は国保加入者と比べれば100分の1という状況でございますので、これからもより受診率を高めるための工夫はしていく必要があると思っております。以上です。

◆局長の「必ず健診の受診というのは促している」との答弁について、

◇小倉生健会の見解：

実際には、答弁のような「丁寧な対応」は、ほとんど行われておりません。是非、答弁どおりの丁寧な対応を求めます。

